

財団法人 8020 推進財団
平成16年度歯科保健活動助成事業報告書
健康しもにた21「8020」住民学習会

群馬県下仁田町

1. はじめに

下仁田町では3歳児のむし歯罹患状況を改善するために、昭和63年度より富岡甘楽歯科医師会の指導のもとに、幼児歯科健診時にフッ化物歯面塗布を導入し、フッ化物を利用した「3歳児のむし歯半減運動」を開始し、その結果乳幼児のむし歯罹患状況を大幅に改善することができました。

このことを契機として、「8020」をめざすために、保育園での集団フッ化物洗口、小中学生の家庭でのフッ化物洗口、40才、50才、70才、リハビリ通所者歯科健診、口腔衛生指導、寝たきり者訪問口腔衛生指導等、子どもから高齢者まで生涯にわたる歯科保健に取り組んできましたが、永久歯のむし歯罹患状況をはじめ、成人高齢者の口腔内の状況には大きな課題があることがわかりました。

平成14年度には、健康日本21計画の地方計画である「健康しもにた21」を住民と共に策定し、積極的な健康づくりの推進を図るために、住民と共にとりくんでいます。「健康しもにた7カ条」には歯の健康分野のスローガンを「いつまでも自分の歯・8020を目指しましょう」と定め、歯の健康づくりを元気で長生きするための健康づくりの基盤に据えています。

今年度は、高齢者の歯への思いを聞き、平成15年度「8020推進基盤整備事業」で得られた成果を基に、今後町で目指すべき方向「フロリデーシヨンの推進」に向けた啓発活動を充実させ、体験を通じた住民学習会、フロリデーシヨンプランレットの作成、先進地視察や学習会を積み重ねた保健推進員による住民啓発活動を行ってきました。

2. 平成15年度「健康しもにた21」8020基盤整備事業の成果

1) 8020専門委員会の提言

《フロリデーシヨンの推進》

- ・各種フッ化物応用の中で最も優れた公衆衛生的方法である
- ・給水地域で生活する住民の全てその恩恵を受ける
- ・生涯にわたるむし歯予防対策が確立
- ・8020運動推進のための基盤が整備される
- ・より多くの住民から支持が得られるように啓発活動を充実させ継続させていくことが重要である

2) 8020推進学習会の話し合い・グループインタビューから得られたこと

《歯の健康に対する住民の思い》

自分の歯は失ってしまったが、子ども達の歯は守ってあげたい

《水道利用の効果に対する住民の意識》

- ・水道水に入れていただきたいなーと思っている、研究されて良いとわかっていることでみんながそれで良くなれば
- ・一番よいフッ化物利用法はフロリデーシヨン
- ・イオン水を活用している人がいる、水道水を上手に使っていったらよい

《フロリデーシヨンの普及啓発》

- ※ 住民が主体的に啓発
 - ・学んだことをみんなで伝えてゆく
 - ・認識を深める人が増えてゆくことが必要
- ※ 経済性からの啓発
- ※ 子どものむし歯予防の実績からの啓発
- ※ 安全性と効果を多くの人へ啓発
- ※ 保健センターでの啓発
 - ・わかりやすいチラシを作り早くみんなに知らせる
 - ・小さな地域ごとの学習会
- ※ 会員募集による啓発

《その他》

- ・疑問に答える体制づくり
- ・住民代表の議員さんに勉強してもらう事が必要
- ・住民からの意見を求める活動が必要
- ・厚生労働省への働きかけが必要

3. 平成16年度健康しもにた21「8020」住民学習会

1) 目的

「健康しもにた21」計画に基づき、生涯を通して誰もが食事を楽しみ、健康的な生活が送れるよう、フッ化物を利用したむし歯予防の正確な情報を住民に伝え、フロリデーションが受け入れられる土壌をつくる。

2) 事業内容

(1) 専門機関による支援をえて多様な地区組織との連携による啓発

富岡甘楽歯科医師会、日本口腔衛生学会、下仁田町医師、下仁田町歯科医師、下仁田町薬剤師等、保健医療の専門家による支援をえて、地域の健康づくりのリーダーとなる健康づくり推進協議会、保健推進員協議会、健康しもにた21推進ネットワークが中心となり、自分たちが学んだことを地域住民へ伝える活動を行う他、保健センターで行う様々な学習会でフロリデーション水を体験する機会を設けた。

(2) 日本口腔衛生学会の監修を得て、地域の専門団体である富岡甘楽歯科医師会と連名の基にフロリデーションパンフレットを作成し、学習会で活用した。

(3) フロリデーションをより理解しやすくするために、啓発媒体として保健センターにフロリデーション装置を付け、フロリデーション水がいつでも体験できる環境を作ることを検討した。

4. 事業内容一覧

実施日	事業内容	スタッフ	人数
平成16年 4月20日	保健推進員学習会 健康しもにた21・「8020」をめざして	八木 稔	98
平成16年 6月20日	下仁田町「8020」実態調査 ・元気な高齢者と要介護高齢者 ・歯科健診と話し合い	小林清吾 歯科衛生士 歯学部学生	35
平成16年5月31日 ～ 7月23日 5 日間10会場	基本健診結果説明会住民学習会 ・パンフレット	町保健師	353
平成16年 10月1日	8020住民学習会打ち合わせ会 ・学習会の持ち方 ・パンフレット作成検討	8020専門委員	18
平成16年 10月14日	先進地視察・保健推進員 日本大学松戸歯学部衛生学講座	小林清吾	30
平成16年 11月6日	ふれあい福祉健康祭り ・保健推進員による啓発活動 ・学んだことを住民へ伝える ・パンフレット・フロリデーション水	田浦勝彦 保健推進員	450
平成16年 11月12日	保健推進員交流会 ・フロリデーションについて	保健推進員	50
平成16年 12月25日	8020住民学習会打ち合わせ会 ・学習会の持ち方 ・学習媒体としてふれあいセンター フロリデーションモデルの検討 ・町制施行50周年記念事業について	8020専門委員・職員	15
平成17年1月12日 ～1月20日 4日間4会場	保健推進員学習会 ・フロリデーション水を使用して調理 実習	保健推進員 栄養士 保健師	90
平成17年1月20日 ～2月3日 2日間2会場	節目健診結果説明会住民学習会 ・フロリデーションパンフレット フロリデーション水を使用	保健師	49
平成17年 2月13日	町制施行50周年記念事業 ・フロリデーションパンフレット フロリデーション水を使用	8020専門委員・職員 歯学部学生	300
平成17年2月28日 ～3月4日 2日間2会場	フッ素洗口説明会住民学習会 ・フロリデーションパンフレット ・対象者：保育園児、小学生保護者	市川智旦 薬剤師 歯科衛生士	40
平成17年 3月3日	住民学習会啓発媒体の検討 フロリデーションモデル装置について	8020専門委員・職員	10

5.8020 実態調査

目的：高齢者の歯の実態と歯への思いを知る

1) 高齢者の歯の実態

区 分	参加者数	年 齢	平均年齢	一人平均残存歯数
元 気高齢者	16	62歳～84歳	74.2	17.8
要介護高齢者	19	73歳～102歳	85.7	4.4

2) 入れ歯について

元気高齢者16人 ・ 要介護高齢者19人

問	内 容	元 気 高 齢 者		要 介 護 高 齢 者	
		人	%	人	%
1. 入れ歯を持っている	な し	7	43.8	4	21.0
	部分入れ歯	9	56.2	4	21.0
	総入れ歯	0	0	11	58.0
		16	100.0	19	100.0
2. 入れ歯の具合	良 い	2	22.2	10	66.7
	悪 い	7	77.8	5	33.3
		9	100.0	15	100.0
3. 入れ歯になって 困ったこと	な し	0	0	4	26.7
	あ り	9	100.0	11	73.3
		9	100.0	15	100.0
4. 現在の入れ歯に満足	は い	4	44.4	13	86.7
	い い え	5	55.6	2	13.3
		9	100.0	15	100.0
5. もう一度自分の歯 を取り戻したい	は い	8	80.0	10	52.6
	い い え	2	20.0	9	47.4
		10	100.0	19	100.0
6. 歯磨き（入れ歯磨 き）をしているか	は い	16	100.0	18	94.7
	1 回	5	31.3	7	38.9
	2 回	5	31.3	4	22.2
	3 回～	6	37.4	7	38.9
	い い え	0	0	1	5.3
			100.0		100.0
7. むし歯予防方法で 知っていること (複数回答)	フッ素洗口	6	12.0	1	2.8
	フロリデーション	1	2.0	0	0.0
	歯磨き	13	26.0	12	33.3
	歯磨き粉使用	9	18.0	5	13.9
	歯科医院への通院	2	4.0	5	13.9
	洗口剤	3	6.0	1	2.8
	歯間ブラシ	6	12.0	1	2.8
	デンタルフロス	2	4.0	1	2.8
	つまようじ	5	10.0	5	13.9
	うがいをする	3	6.0	3	8.2
	甘い物を避ける	0	0.0	2	5.6
	回答数	50	100.0	36	100.0

表1) 入れ歯について感じる事

	元気高齢者	要介護高齢者
問 2 具合が悪い	<p>はい 《7人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噛みごちが悪い ・唾液がねばねばする ・不快・違和感がある ・合わないので使用しない ・変な感じがするので使わない ・固い物は食べたくない 	<p>はい 《6人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごはんを食べると痛い ・かみ合わせが良くない ・痛みがある ・義歯がうく ・固いものが食べにくい ・食事時痛みがある
問 3 困ったことがある	<p>はい 《9人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物がまずい ・味、食感の変化 ・しゃべりにくい ・口臭がする ・食べにくい ・なじむまで時間がかかる ・変な感じ ・最初は痛みがあった 	<p>はい 《10人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何となく味が変わった ・話づらい・痛い ・口臭が気になる ・慣れるまでしゃべりにくい ・入れた時は痛くてご飯が食べられなかった ・噛んだ時の音が違う ・食事の楽しみが減少 ・気持ちが悪い ・食べ物がまずい ・最初はしゃべりづらい ・食べにくいため残してしまう
問 4 もう一度自分の歯に戻りたい	<p>はい 《10人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入れ歯は具合が悪い ・自分の歯でたべものを食べたい ・固い物も自由に食べてみたい ・たまに差し歯の部分が痛い ・食べ物を美味しく食べたい 	<p>はい 《10人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧迫感がある ・自分の歯だと食事がおいしい ・何を食べても入れ歯はおいしくない ・好きな食べ物が食べたいから ・味が良く分かるから ・固い物を食べたいから
	<p>いいえ 《2人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入なし 	<p>いいえ 《9人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛い思いをしたり1日2回位歯医者に行ったりしたので戻りたくない ・入れ歯が苦にならないので ・自分の歯のようだから ・何でも食べられるから ・入れ歯に満足しているから ・長年入れているので慣れてるから

3) 入れ歯についてのアンケート結果から得られたこと

- (1) 問1、入れ歯を持っているかに対し、元気高齢者では主に良い歯のため「入れ歯なし」が7人43.8%であり、要介護高齢者では入れ歯が必要であるが持っていない人が4人21%であった。

元気高齢者で入れ歯を入れている者は9人で全員が部分入れ歯であった。

要介護高齢者は部分入れ歯4人21%、総入れ歯11人58%であった。

- (2) 問2、入れ歯の具合について、良いと答えた者は、元気高齢者では2人22%と少なく要介護高齢者では10人66.7%と多くなっている。

悪いと答えた者は元気高齢者では7人77.8%と多く、要介護高齢者では5人33%と少なくなっている。

具合が悪い内訳では表1)に示すように、痛みがある、固い物が食べにくいなどは共通しており、元気高齢者では噛みごちが悪い、違和感、変な感じ、など嫌な感覚を指摘している。

- (3) 問3、入れ歯になって困ったことがあるかに対しては、元気高齢者では9人全員あると答え、要介護高齢者では11人73%があると答えている。

困ったことの内訳では表1)に示すように、食べ物がまずい、味、食感の変化、食べにくい、しゃべりにくい、口臭が気になる、最初は痛みがあった、なじむまで時間がかかる、変な感じ等が共通しており、食べにくいため残してしまう、噛んだときの音が違う、食事の楽しみが減少してしまうなど生活の質の低下を指摘している。

- (4) 問4、現在の入れ歯に満足しているかに対しては、元気高齢者では満足している者と満足していない者がおよそ半数であった。要介護高齢者では満足している者は13人86.7%と高率であった。

- (5) 問5、もう一度自分の歯を取り戻したいかに対しては、元気高齢者では8人80%がはいと答えており、要介護高齢者では、はい10人52.6%、いいえ9人47.4%およそ半数となっている。

自分の歯を取り戻したい理由は表1)に示すように、固い物を自由に食べたい、自分の歯だと味が良く分かる。食べ物を美味しく食べたいに集約される。

いいえの理由は表1)に示すように、痛い思いをして大変だった事と長い間入れ歯を入れているので慣れた事入れ歯に満足していることが伺える

4) 歯の大切さについて話し合い

《要介護高齢者・歯への思い》

- ・ 歯は大事だと思う。
- ・ 歯が一番大切、歯がない生活は考えられない。
- ・ 食べられることが幸せである。
- ・ 歌うのが大好き、だから歯が大切。
- ・ 昔の事であるが歯は大切である。
- ・ 歯がよいと何でも食べられる。糸も切れる。
- ・ 歯が残っている人をうらやましく思う。
- ・ 入れ歯は入れたときに痛くてご飯が食べられないのがつらかった。
- ・ 固い物が食べたい
- ・ 国がもっと積極的にむし歯予防に取り組んでいれば歯を失うこともなかった。
- ・ 昔は歯医者さんの数が少なかったので歯医者さんにかかる機会がなかった。
- ・ 30歳まではむし歯がなかった。
- ・ 小さい頃から歯が痛くなって困っていたので、歯ブラシの習慣はあった。
- ・ 歯並びも悪かったので歯医者さんに行くことが多かった。
- ・ 入れ歯が合っているので歯の大切さについて考えたことはない。

《元気高齢者・歯への思い》

- ・ 歯があるときには大切さに気づかず、失って初めて気づいた。
- ・ 年を取って歯の大切さに気づいた。
- ・ 60歳をすぎないと歯の大切さはわからない。
- ・ 60歳ぐらいまで歯が健康な時は大切さに気づかなかった。
- ・ 40～50代から歯が悪くなった。
- ・ 60歳までは歯の大切さが分からなかった、60歳過ぎに歯に関心を持ち始めた。
- ・ 歯が痛くなったとき特に大切に思う。
- ・ 残っている歯は大事にしたい。
- ・ 歯は大切にしたい。
- ・ 歯をどうしても残したい。
- ・ 60歳以上は1本がとても大切。
- ・ 入れ歯じゃ味がわかんない。
- ・ 抜歯はあまり痛くは無かったが精神的なダメージがある。
- ・ 入れ歯が入らなくてほっといたら隙間が無くなって入らなくなった食べるときに心配になる。せんべい大好き。
- ・ 歯医者にいった時には遅かった。
- ・ 治療した歯は味に変化がある。

《歯を守るために心掛けていること》

- ・ 定期的に歯医者に行くのがよい。
- ・ 1年に1回は歯石を取ってもらう。
- ・ 固いものを好んで食べる。
- ・ お茶をよく飲む。
- ・ 夜10分間歯磨きをしている。

- ・むし歯にならないように砂糖をとらない。カルシウムを取るようになっている
- ・全部自分の歯、お菓子を食べない様に気づいている。

《歯を守るために町への要望》

- ・年1回、町で歯科健診をしてほしい。
- ・フッ素口洗をしたい。
- ・中学生まで配ってくれるが大人にもフッ素洗口剤がほしい。
- ・75歳ではなく、もっと早くブラッシング指導をしてほしい。
- ・こういうイベントを増やしてほしい。

《現状・その他》

- ・痛くなるまで歯医者へは行かない人が多い。
- ・残っている歯は少ないが噛む歯があるので歯医者へ行く気はない。
- ・入れ歯、話しづらさには慣れたのか感じない。
- ・痛みが無ければ入れ歯を作りたい。
- ・父も歯が良かった、自分も歯が良いので遺伝的なものがある。
- ・定期的には歯医者に行っていない。
- ・部分入れ歯を使用した方が、他の歯のためにもいいと分かっているが、なかなか使うことができない。
- ・歯医者怖いとまでは考えていないが、笑顔、気やすい様な気使いがほしい。
- ・すぐ抜きたがる歯医者や痛いところ以外をさわる歯医者は嫌。
- ・歯のすり減りを元に戻したいけれど年だからとあきらめる。
- ・今の歯の状態でも困らないので歯医者に行く気はない。
- ・歯を失う前に歯医者へ行く気はない。
- ・痛みなどの症状で受診するところ。
- ・歯が悪い、戦後直後なのでカルシウムがとれなかった。

《子ども達の歯を守るために》

- ・自分の経験から歯を失わないように子ども達に伝える
- ・むし歯を予防するためにフッ素がすばらしい
- ・中学生までフッ素洗口剤が配られる。
- ・フッ素洗口などにより歯を健康に保ってほしい。
- ・ブラッシングやおやつ回数が大事。
- ・子どもは子どもで一緒になって取り組むことが大切。
- ・食後は洗口をするなどの、約束事を決めると取り組みやすい。
- ・孫は毎食後歯磨きをして、甘い物を避け小魚などカルシウムをとる等気をつけている。むし歯はない。
- ・学校と家庭の連携プレーで子ども達のむし歯予防して入れ歯にならないよう指導してあげてほしい。
- ・学校で歯の健診を1年に1度する。
- ・孫は3人いて良く歯磨きをしており、むし歯はない。
- ・フッ素にはあまり興味はないが下仁田の歯科保健の取り組みは知っている。良いと思う。

6. 住民 学習会

1) 学習会日程

実施日	対象者	参加者
平成16年4月20日	保健推進員学習会	98
平成16年5月31日～7月23日	基本健診結果説明会住民学習会	353
平成16年11月6日	ふれあい福祉健康まつり住民学習会	259
平成16年11月12日	保健推進員交流会	50
平成17年1月12日～1月20日	保健推進員学習会	90
平成17年1月20日～2月3日	節目健診結果説明会住民学習会	49
平成17年2月13日	町制施行50周年記念事業住民学習会	300
平成17年2月28日～3月4日	フッ素洗口説明会住民学習会	40

2) 学習会の内容

※あらゆる機会にあわせて住民学習会を行い、フロリデーションについて啓発を行った

※ふれあい福祉健康まつりや保健推進員交流会、節目健診説明会において保健推進員が中心となり、学んだことを自分の言葉で地域住民へつたえる活動を行った。

※学習会資料は

- ・町民の歯の現状と「健康しもにた21」歯の目標について周知する
- ・フロリデーションパンフレット（別紙）の使用
- ・日本大学松戸歯学部からフロリデーション水を提供してもらい試飲する

※感想を話し合う

3) 感想

- ・普通の水だね。
- ・水を飲むことでむし歯を防ぐことが出来たら良い。
- ・子どもを泣かせないでむし歯が予防できるのが良い。
- ・子どもから高齢者までみんなに効果があるのが良い。
- ・外国では普通のこと、早く下仁田もなると良い。
- ・フロリデーションという言葉は初めて聞いた。
- ・いつからフロリデーション水が飲めるか、早くなると良い。
- ・フロリデーションのための署名等必要があればしたい。
- ・フッ素洗口で子どもにむし歯ができなくて感謝しているが飲むのは嫌。
- ・水道の水になると選べないから嫌。

4) 学習会の様子

別紙写真

7. 平成16年度ふれあい福祉健康祭り参加者アンケート（男性29人、女性147人）

質問	区分	はい	いいえ	不明	未記入	合計
(1) フッ素は自然界に存在する	男	17(59%)	2(7%)	8(28%)	2(7%)	29(100.0)
	女	77(52%)	18(12%)	43(29%)	9(6%)	147(100.0)
	計	94(54%)	20(11%)	51(29%)	11(6%)	176(100.0)
(2) フッ素は海水に存在する	男	10(34%)	7(24%)	9(31%)	3(10%)	29(100.0)
	女	53(36%)	20(14%)	62(42%)	12(8%)	147(100.0)
	計	63(36%)	27(15%)	71(40%)	15(9%)	176(100.0)
(3) フッ素は食品に含まれる	男	11(38%)	7(24%)	7(24%)	4(14%)	29(100.0)
	女	57(39%)	24(16%)	49(33%)	17(16%)	147(100.0)
	計	68(39%)	31(17%)	56(32%)	21(12%)	176(100.0)
(4) フッ素入り歯磨剤を知っている	男	24(83%)	4(14%)	1(3%)	0	29(100.0)
	女	125(85%)	15(10%)	7(5%)	0	147(100.0)
	計	149(85%)	19(11%)	8(4%)	0	176(100.0)
(5) フッ素洗口を知っている	男	21(72%)	6(21%)	2(7%)	0	29(100.0)
	女	114(78%)	24(16%)	9(6%)	0	147(100.0)
	計	135(77%)	30(17%)	11(6%)	0	176(100.0)
(6) フロリデーションを知っている	男	13(45%)	13(45%)	3(10%)	0	29(100.0)
	女	80(54%)	56(38%)	11(7%)	0	147(100.0)
	計	93(53%)	69(39%)	14(8%)	0	176(100.0)
(7) フッ素はむし歯予防効果がある	男	24(83%)	1(3%)	2(7%)	2(7%)	29(100.0)
	女	126(86%)	2(1%)	13(9%)	6(4%)	147(100.0)
	計	150(85%)	3(2%)	15(8%)	8(5%)	176(100.0)
(8) フッ素は高齢者のむし歯予防に効果がある	男	18(62%)	3(10%)	7(24%)	1(3%)	29(100.0)
	女	102(69%)	4(8%)	33(22%)	8(5%)	147(100.0)
	計	120(68%)	7(4%)	40(23%)	9(5%)	176(100.0)
(9) フロリデーションのフッ素濃度	濃度	0.1~0.3	0.6~0.8	1.5~1.7	未記入	
	男	10(34%)	6(21%)	1(3%)	12(41%)	29(100.0)
	女	51(35%)	27(18%)	10(7%)	59(40%)	147(100.0)
	計	61(35%)	33(19%)	11(6%)	71(40%)	176(100.0)
(10) フロリデーションは安全である	男	16(55%)	2(7%)	7(24%)	4(14%)	29(100.0)
	女	79(54%)	9(6%)	44(30%)	15(10%)	147(100.0)
	計	95(54%)	11(6%)	51(29%)	19(11%)	176(100.0)
(11) フロリデーションの1人当り費用	費用	100円	1000円	10000円	未記入	
	男	14(48%)	2(7%)	0(0%)	13(45%)	29(100.0)
	女	64(44%)	33(22%)	2(1%)	48(33%)	147(100.0)
	計	78(44%)	35(20%)	2(1%)	61(35%)	176(100.0)
(12) フッ素利用を認める専門団体数	団体	15	50	150	未記入	
	男	8(28%)	5(17%)	4(14%)	12(41%)	29(100.0)
	女	40(27%)	31(21%)	25(17%)	51(35%)	147(100.0)
	計	48(27%)	36(20%)	29(16%)	63(36%)	176(100.0)

平成 15 年度アンケート結果

A：比較的学習経験のあるグループ 31 人

B：比較的学習経験の少ないグループ 35 人

質 問	区分	は い	いいえ	わからない	未記入	合 計
フッ素は	A	29 (93.6)	1 (3.2)	1 (3.2)		31 (100.0)
自然界に存在する	B	31 (88.6)			4 (11.4)	35 (100.0)
	計	60 (90.9)	1 (1.5)	1 (1.5)	4 (6.1)	66 (100.0)
フッ素は	A	30 (96.8)		1 (3.2)		31 (100.0)
海水に存在する	B	31 (88.6)			4 (11.4)	35 (100.0)
	計	61 (92.4)		1 (1.5)	4 (6.1)	66 (100.0)
フッ素は	A	30 (96.8)		1 (3.2)		31 (100.0)
食品に含まれる	B	27 (77.1)	3 (8.6)	5 (14.3)		35 (100.0)
	計	57 (86.4)	3 (4.5)	6 (9.1)		66 (100.0)
フッ素入り歯磨剤	A	30 (96.8)	1 (3.2)			31 (100.0)
を知っている	B	31 (88.6)	4 (11.4)			35 (100.0)
	計	61 (92.4)	5 (7.6)			66 (100.0)
フッ素洗口	A	29 (93.5)	2 (6.5)			31 (100.0)
を知っている	B	27 (77.1)	7 (20.0)		1 (2.9)	35 (100.0)
	計	56 (84.9)	9 (13.6)		1 (1.5)	66 (100.0)
	A	29 (93.5)	2 (6.5)			31 (100.0)
フロリデーション	B	20 (57.1)	15 (42.9)			35 (100.0)
を知っている	計	49 (74.2)	17 (25.8)			66 (100.0)
フッ素はむし歯	A	31 (100)				31 (100.0)
予防効果がある	B	30 (85.7)		5 (14.3)		35 (100.0)
	計	61 (92.4)		5 (7.6)		66 (100.0)
フッ素は	A	28 (90.3)	1 (3.2)	2 (6.5)		31 (100.0)
高齢者のむし歯予	B	25 (71.4)	3 (8.6)	6 (17.1)	1 (2.9)	35 (100.0)
防に効果がある	計	53 (80.3)	4 (6.1)	8 (12.1)	1 (1.5)	66 (100.0)
フッ素濃度		0.1 ~ 0.3	0.6 ~ 0.8	1.5 ~ 1.7		
フロリデーション	A	10 (32.2)	16 (51.6)	2 (6.5)	3 (9.7)	31 (100.0)
のフッ素濃度	B	15 (42.9)	11 (31.4)	5 (14.3)	4 (11.4)	35 (100.0)
	計	25 (37.9)	27 (40.9)	7 (10.6)	7 (10.6)	66 (100.0)
	A	29 (93.6)	1 (3.2)	1 (3.2)		31 (100.0)
フロリデーション	B	24 (68.6)	3 (8.6)	7 (20.2)	1 (2.9)	35 (100.0)
は安全である	計	53 (80.3)	4 (6.1)	8 (12.1)	1 (1.5)	66 (100.0)
1人当り費用		100円	1000円	10000円	わからない	
フロリデーション	A	25 (80.6)	1 (3.2)	3 (9.7)	2 (6.5)	31 (100.0)
の1人当り費用	B	22 (62.8)	3 (8.6)		10 (28.6)	35 (100.0)
	計	47 (71.2)	4 (6.1)	3 (4.5)	12 (18.2)	66 (100.0)
専門団体数		15	50	150		
フッ素利用を認め	A	3 (9.7)	3 (9.7)	24 (77.4)	1 (3.2)	31 (100.0)
る専門団体数	B	6 (17.1)	7 (20.0)	13 (37.2)	9 (25.7)	35 (100.0)
	計	9 (13.6)	10 (15.2)	37 (56.0)	10 (15.2)	66 (100.0)

1) アンケート結果から得られたこと

- (1) 問1から問3「自然界、海水、食品などに、フッ素があると思うか」に対し、昨年度の比較的学习経験のあるAグループでは問1、94%、問2、97%問3、97%が「はい」と答えているが、今年度の健康祭り参加者では問1 54%、問2 36%、問3 39%と「はい」と答える率が低い。このことから、あらゆる機会を捉えて啓発することが必要であることがわかる。
- (2) 問4「フッ素入り歯みがき剤を知っているか」に対してはAグループ97%健康祭り参加者85%が「はい」と答えている。このことからフッ素入り歯みがき剤については周知されていることがわかる。
- (3) 問5「フッ素洗口を知っているか」に対してはAグループ94%、健康祭り参加者77%がはいと答えている。このことにより、下仁田町の子ども達に対するむし歯予防の為のフッ化物応用については周知されていることがわかる。
- (4) 問6「フロリデーションを知っているか」に対しては、Aグループでは94%が「はい」と答えているが健康祭り参加者では53%と低い。このことから局所応用としてのフッ素洗口に比べ、全身応用としてのフロリデーションの啓発はこれからといえる。
- (5) 問7「フッ素はむし歯予防効果があるか」の質問では、Aグループでは100%が「はい」、健康祭り参加者では85%と高率になっている。このことから子ども達のむし歯予防に取り組み、むし歯を減少させてきた実績は周知されていることがわかる。
- (6) 問8「フッ素は高齢者の歯の健康に効果があると思うか」に対しては、Aグループでは90%が「はい」と答えているが、健康祭り参加者では68%となっている。問7で85%の回答があるがフッ化物応用は子ども物の印象が強いためかと考える。
- (7) 問9「フロリデーションの濃度」の正解率は、Aグループ52%、健康祭り参加者では33%であり両方とも低率であった。
- (8) 問11「フロリデーションは安全であると思うか」の質問では、Aグループでは94%が「はい」と答えているが、健康祭り参加者では54%と低い。
- (9) 問11「フロリデーションの一人当たり費用」の正解率はAグループが81%で健康祭り来所者では44%と低い。
- (10) 問12「フロリデーションなどのフッ素利用を認めている専門団体の数」の正解率はAグループでは77%、健康祭り来所者では16%と低い。

8. 結果と考察

1) 高齢者の歯への思いについて考察

※今年度は平均年齢74.2歳の元気高齢者及び平均年齢85.7歳の要介護高齢者の入れ歯の状況や歯への思いを聞くことができた。

※元気高齢者の歯の状況は良い歯の人が多く、部分入れ歯が主であり、要介護高齢者は総入れ歯の人半数を占めていた。

※元気高齢者、要介護高齢者ともに歯は大切であると思っている。

※「歯がない生活は考えられない」、「食べるのが幸せ」、「歌うのが大好きだから歯が大切」、「歯をどうしても残したい」と思っている。

※歯の大切さについては「歯があるときは大切さに気づかず歯を失ってから初めて気づいた」と答え、年を取って歯を失ってから気づくもの。気づいてからでは遅かった。と言う言葉が印象的である。

※歯を守るために個人で心がけていることは定期的に歯医者へ行く、歯石をとる、歯みがき、カルシウムを取り甘い物を食べないなどである。

※行政への要望としては1年に1回の歯科健診、大人もフッ素洗口をしたい等予防に取り組んで欲しいというものである。

※現状では「痛くなるまで歯医者へは行かない人が多い」。「痛みなど症状が出てから行くところ」という認識である。また「残っている歯は少ないが噛む歯があるので歯医者へ行く気はない」「歯を失う前に歯医者へ行く気はない」と答える人もいる。

※子ども達の歯を守るために、「自分の経験から歯を失わないように子ども達に伝える」と答えている、高齢者の大切な働きがここにある。

歯を失ってからでなければ本当の歯の大切さに気づくことがないと考えれば、歯を失った高齢者でなければ出来ない子ども達への啓発活動であると言える。

子ども達が歯の大切さに気づき、歯を残すための道具とし、科学的根拠に基づいたむし歯予防のためのフッ素応用や、歯みがき、食べ方などが実践されることにより8020が達成される。

2) 住民学習会における感想からの考察

※フロリデーションの説明と試飲により「普通の水だね」との感想を得た事が今回の学習会の成果といえる。百聞は一見に如かずといわれるがフロリデーション水を飲むことにほとんどの人に抵抗はみられなかった。

今後の啓発活動には体験を通して情報提供してゆくことが効果的であることが示唆されたと考える。

3) ふれあい福祉健康まつり参加者啓発及びアンケート結果について考察

※研修会や視察を行い、フロリデーションについて学んだ保健推進員により、健康祭り前にパネルが作成され、当日はアンケート係り、説明係り、フロリデーション水を配る係りと役割分担を行い、参加者へ自分の言葉で話っていた。

※アンケート調査では昨年行った学習会参加者と比較した。フッ素はむし歯予防に効果があることを知っている者は多いが、フロリデーションを知っている人は少なく、今後の啓発が必要である事がわかった。

9. 評価

1) 高齢者の歯への思いが聞けたこと

「おいしく食べたり、歌を歌ったりするのが大好きだから歯は大事」と言う「歯の大切さは60歳を過ぎてからでないといけない」、「歯を失って初めて気がつく」そして「気がついたときには遅かった」と言う。この「高齢者の歯への思い」をみんなで共有することが良い歯を目指すエネルギーになると考える。

2) 学んだ住民による住民啓発ができたこと

保健推進員の活動によるフロリデーション啓発について、フロリデーション水を活用し、健康祭りや交流会結果説明会等で堂々と話す保健推進員の説明は実に見事であった。このように学習を重ね、自分達の健康づくりに役立つと信念を持つ住民が多くなるのが力強い。この力が住民へ正しい情報となって届くことが期待される。

3) フロリデーション啓発用パンフレットが作成できたこと

啓発にはわかりやすいパンフレットが必要である。日本口腔衛生学会の監修の基に、富岡甘楽歯科医師会と連名でフロリデーション啓発用のパンフレットが出来たことは大きな成果である。

4) フロリデーション水を活用した啓発ができたこと

日本大学松戸歯学部からフロリデーション水を提供していただき、水を体験できた結果、「普通の水だね」「水を飲むことでむし歯が防げる事は良い」という感想が得られた事は大きな成果である。

10. おわりに

多くの先生方のご指導をいただき、話し合いやフロリデーションパンフレットフロリデーション水の体験を通して有意義な住民学習会ができました。

「健康しもにた21」の目指すところは町民がみな元気で長生きできるようにしてゆくことであり、歯は健康づくりの源です。高齢者の歯への思い「失ってから気づく歯の大切さ」、「美味しく食べて、歌を歌う生活の楽しみ」このことをみんなで共有し、一人一人の健康づくりをしやすくするための環境づくりを住民と共に更に進めてゆきたいと考えます。

この事業実施にあたり、助成をいただきました財団法人8020財団をはじめ、熱心にご指導下さいました日本口腔衛生学会、富岡甘楽歯科医師会、富岡甘楽歯科衛生士会、町内の医師、歯科医師、薬剤師の先生方、日本大学松戸歯学部衛生学講座の先生及び学生の皆様、熱心に学習会に参加していただいた住民の皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。